

1 ごみの排出・処理状況

(1) ごみの排出状況の一覧

	令和元年度	令和2年度	対前年度※
ごみ総排出量	233.0万トン	232.4万トン	△0.2%
事業系ごみ排出量	54.4万トン	49.1万トン	△9.8%
生活系ごみ排出量	169.0万トン	175.3万トン	+3.7%
集団回収量※	9.6万トン	8.1万トン	△16.1%
県民1人1日当たりのごみ排出量	862グラム	861グラム	△0.1%
県民1人1日当たりの生活系ごみ排出量	625グラム	650グラム	+4.0%
人口	738.8万人	739.5万人	+0.1%

※市町村による用具の貸出し、補助金の交付等で市町村に登録された住民団体によって回収された量

※端数処理により、対前年度の計算が一致しない場合があります

(2) ごみの処理状況の一覧

	令和元年度	令和2年度	対前年度※
リサイクル量	55.2万トン	56.8万トン	+2.8%
リサイクル率	23.7%	24.4%	+0.7ポイント
最終処分量	9.1万トン	8.6万トン	△6.2%
県民1人1日当たりの最終処分量	33.7グラム	31.7グラム	△5.9%

※端数処理により、対前年度の計算が一致しない場合があります

2 施設整備状況

(1) ごみ焼却施設の状況

- ・ 県内市町村の稼働施設数 46 か所 (処理能力 9,164 トン/日)
- ・ うち、発電施設を有する施設 18 施設 (発電能力 9.5 万 kW)

(2) 最終処分場の状況

- ・ 最終処分量 8.6 万トン/年
- ・ 最終処分場の残余容量 (令和 2 年度末) 175.4 万 m³
(うち県環境整備センター 99.2 万 m³)

※ 上記の残余容量は、約 28 年分の最終処分量に相当します

3 廃棄物処理事業経費の状況

年間の県民 1 人あたりのごみ処理費用は 13,313 円で、前年度に比べて 3.2%減少しました。

	令和元年度	令和 2 年度	対前年度※
ごみ処理費用	1,016 億円	984 億円	△3.1%
(主な費用)			
処理・維持管理費	842 億円	851 億円	+1.2%
建設改良費	130 億円	102 億円	△21.8%
県民 1 人あたりのごみ処理費用	13,753 円	13,313 円	△3.2%

※端数処理により、対前年度の計算が一致しない場合があります

4 ごみの発生抑制、再生利用の状況

(1) 取組の県内市町村ベスト5

リデュース（廃棄物の発生抑制）やリサイクル（使用済み製品等の原材料としての再生利用）などに関して、県内で上位の市町村は次のとおりです。

	市	町村
リデュース (1人1日当たりのごみ排出量) ※県全体 861グラム/人・日	1 富士見市 728グラム/人・日	1 滑川町 748グラム/人・日
	2 桶川市 733グラム/人・日	2 横瀬町 772グラム/人・日
	3 朝霞市 749グラム/人・日	3 東秩父村 792グラム/人・日
	4 志木市 759グラム/人・日	4 皆野町 798グラム/人・日
	5 ふじみ野市 760グラム/人・日	5 ときがわ町 804グラム/人・日
リサイクル (リサイクル率) ※県全体 24.4%	1 加須市 38.4%	1 宮代町 37.1%
	2 朝霞市 33.7%	2 川島町 34.7%
	3 北本市 33.0%	3 ときがわ町 27.4%
	4 狭山市 32.7%	4 小川町 26.9%
	5 桶川市 31.9%	5 吉見町 26.7%

・日高市は、可燃ごみのほぼ全量をセメント原料化（リサイクル率99.7%）していますが、ごみの燃焼（焼却）を伴うため、ランキングに含めていません。

(2) ごみ発電の状況（ごみ焼却施設における年間総発電量）

東埼玉資源環境組合（第一工場）	92,200 MWh/年
東埼玉資源環境組合（第二工場）	58,153 MWh/年
さいたま市桜環境センター	56,695 MWh/年
さいたま市クリーンセンター大崎第二工場	44,084 MWh/年
川口市朝日環境センター	39,418 MWh/年

5 県民の皆様へのお願い

限りある資源を有効利用し、地球への環境負荷を減らすためにも、ごみの排出削減や再資源化を推進していく必要があります。また、ごみを最終的に埋め立てる県内の最終処分場の残余容量には限りがあります。

食べ残しや賞味期限切れ食品の廃棄などの食品ロスを減らし、使い捨てプラスチック製品の使用を控えるとともに、リサイクルできるごみの分別をしっかりと行うなど、できるだけごみを出さないライフスタイルを心掛けましょう。